

# 学校近況報告

本学は在来より僧風教育の万全を期して、学校内外の整備拡充を年々行つて来たが、昨年度より今年度に至る間、左の如く、教科内容の充実を実現して来た。

十年一月二十日三年制短大の認可を受け、一層教育内容を拡充してゐる。

## (一) 教科課程の増強

### (一) 教職員養成課程の新設

本学では年来の懸案であつた教職課程を設け、昭和廿九年十月三十日 文部省より、教育職員免許認定を受けて中学校並びに高等学校の社会科及び宗教科の免許状を取得する事になつた。本年度 昭和三十年三月には、卒業生廿六名が、教育職員免許を得て卒業し、すでに数名が就職して教育に専心してゐる。

### (二) 学科増設及び三年制認可

従来の二年制では教育方針の徹底を見ないので、昭和三十

## (二) 図書の実

本学の図書は、在来の身延文庫等古書を豊富に備えて居り、その中には、すでに国宝の指定を受けてゐる「宋版礼記正義」や、現在国宝の指定を願出てゐる、「本朝文粹」等を始め稀刊本或は筆録の古書を相当に蔵してゐるが、尙新書や洋書の充実をはかり、新刊書の購入と共に、多くの寄贈図書も受けて、夫々の「文庫」を設けてゐる。即ち、大阪の篤信者故岡島伊八氏の寄贈になる「円伊文庫」はその濫觴であるが、先年は深見日円法主が前立正大学教授故稻葉文海師の「稻葉藏書」を引受けて寄贈し「一行院文庫」の基を開かれ

たが、更にその後左の如き、寄贈を受けてゐる。

「脇本文庫」 昭和廿九年四月八日、山梨県竜王村、本妙寺前住職故脇本観静日禎上人の増田妙道の為、遺族より寄贈された。

「一行院文庫」 現法主深見日田親下も、夙に祖山教学の為に御軫念されてゐるが、昭和三十年九月一日、新刊圖書の寄贈をされて自らの院号による「一行院文庫」を設けられた。今後も出来得る限り、圖書の充実に御寄与下さる筈である。

### (三) 教育事業の擴充

「日本育英会奨学金制度の認可」 学生の経済負担軽減は、教育上重要な事であるので、昭和三十年七月十四日、奨学金制度の認可をうけ、勉学を容易ならしめてゐる。

「身延山学園師親会の結成」 身延山では全国から学生が集るので、特にその保証人である、身延山各支院住職の位置は重要であるから、昭和三十年四月一日、身延山各支院住職、学生の父兄、学校の教職員等の組

織による、「身延山学園師親会」が結成され、一般のPTAよりも一層強力な教育事業推進力となる事が期待されてゐる。

「図書館建設の計画」 前述せる圖書の充実に、現在図書館では狹隘であるので、新しく図書館の建設が計画されてゐるが、来る昭和卅二年は身延山第十四世善学院日鏡上人四百遠忌を迎えるので、これを好機とし、実現を計つてゐる。

## 校友会記事

### 廿九年度校友会活動状況

校友会の今年度の運営方針としては、各部共、校内活動に重点を置き、校友会の持つ真の意義を発揮すべく、十月末に新しくスタートし、諸種の悪条件下にあつて、聊かなりとも新しい分野を開拓して行つた事は確かに一歩前進であつたと信じてゐる。然し乍ら現行の制度、学生生徒の環境等の実状からして、理想的な活動の望めな